



有機農業だより

第 2 号

鶴岡市有機農業推進協議会

小学生と田んぼの生き物調査を実施

鶴岡市有機農業推進協議会では、地域内の小学校と田んぼの生き物調査を行っています。6月29日には渡前小学校の生徒と小学校の近くの有機栽培している田んぼで生き物調査が行われました。

調査の結果、イトミミズは10アール当たり約4650万匹、ユスリカの幼虫は10アール当たり約825万匹とその他の生き物も含め有機栽培ほ場の豊かな生物相が明らかになりました。



田んぼの生き物調査の様子 (5/25 鶴岡市渡前)

有機栽培でのイトミミズの役割とは・・・

イトミミズは田んぼの水の中などに生息する5～10cmくらいの糸のようなミミズです。頭から土の中にもぐって有機物や泥を食べ、水中にユラユラさせている尾から「ふん」を出します。この「ふん」は田んぼの表面に積もり栄養豊富な「トロトロ層」を作り出します。また、イトミミズは雑草の種は食べられないので雑草の種はどんどん「トロトロ層」の下に沈んでしまいます。このため、イトミミズが多いと雑草が抑えられると考えられています。

鶴岡市有機農業推進協議会(事務局:鶴岡市藤島庁舎エコタウン室)のご紹介

鶴岡市有機農業推進協議会は鶴岡市内の有機栽培に取り組む7つの生産組織を中心とした協議会で、有機栽培等の課題解決のための調査や消費者等との交流などの取り組みを行っています (<http://www.tsuruoka-yuuki.jp/>)。

水稻新品種「つや姫」の有機栽培

平成 22 年度に本格デビューする山形県の水稲新品種「つや姫」は、本年度の先行販売用として有機栽培と特別栽培のみにより県内各地で作付けされています。

庄内地域では4ヶ所で有機栽培による「つや姫」栽培に取り組まれています。そのうち鶴岡市鷺畑では、「カモ農法」による「つや姫」の栽培が行われており、順調に生育しています。



6月中旬の状況

水稻新品種「つや姫」のご紹介

「つや姫」は山形県水田農業試験場で育成された新品種で、とにかくおいしいことが評判です。また、ごはんの見た目も他の品種と比べ白くてつやがあります。

サッカーJ1 モンテディオ山形のユニフォームの胸口ゴにもなっていますが、今年の秋には先行販売されて皆さんも実物を見かけるようになると思います。



7月上旬の状況

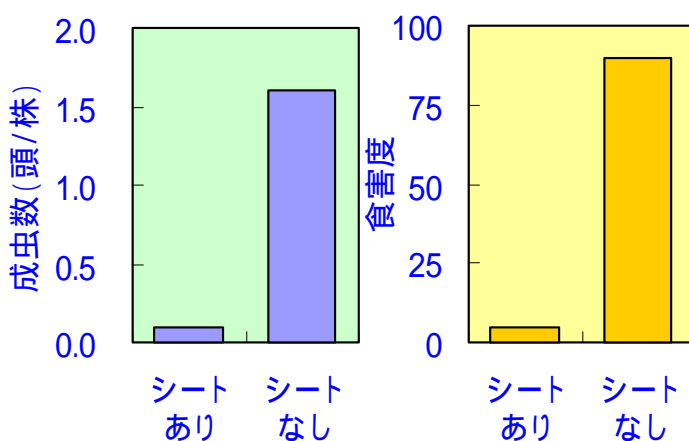
鶴岡市有機農業推進協議会

中間報告！

イネミズゾウムシに対する畦畔シートの効果

前号で紹介しました畦畔シートを水田の周囲に設置することによりイネミズゾウムシの侵入を抑制する方法について、成虫数や葉の食害度（全ての葉が食害された場合を100とした場合の被害程度）幼虫数などを調査しましたので結果をお知らせします。

畦畔シートを設置した水田は、隣の設置しない水田と比べて、イネミズゾウムシの成虫数が少なく、稲の葉への食害も少ない結果でした。また、根に寄生する幼虫数も少ない結果でした。



畦畔シート設置によるイネミズゾウムシ成虫の発生密度と葉への食害程度（5/25 調査）